
『春、夜』

天斗海 草月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

『春、夜』

【Nコード】

N7305L

【作者名】

天斗海 草月

【あらすじ】

桜が咲く時期は以外に微妙である。

卒業式に桜が咲くのは滅多にない。

入学式に桜が咲くのは多少あるかもしれない。

桜の欠点は散るのが早い点である。

一年中咲けばもっと喜ばれるのに桜はそう進化しようとしな
いつかこんな未来が来るといいな。

今日の日付は3月31日だ。

そして今の時刻は23時48分26秒。

俺は中学3年生、卒業式は終わった。

あと数分で俺は高校生になる。

行く高校は決まっている、とある公立の学校、結構良いところだ。

中学の先生からは、3月31日の24時までは中学生なんだから、気を抜くなよ。

とか言われた。

中学生生活、それは楽しかったとも。

最高だった。

それが、あとちょっとで終わるんだ。

俺は今、学校に向かっている。

ある奴と会ったためだ。

なんというか、彼女といえば分かりやすいかもしれない。

俺の彼女。

今から、会いに行く。

高校は別、だからこれからはもう殆ど会えない。

せめて最後の日ぐらい、思い出を作りたかった。

校門が見えてくる。

そこに彼女は居た。

制服を着て、1人で立っている。

「おおい」

大声で呼んでみる。

気づいてくれたようだ。

俺は彼女の元へ近づく。

「ねえ、今日も良い夜だね」

「おう、最後に相應しい感じの夜だ」

「これで、私達も別々になるんだよね」

「まあな、でもまた会えないわけじゃない、会おうと思ったらいつでも会えるさ」

俺は彼女の額をさわる。

眼が少し赤いのは気にしないでやろう。

時計を見る、時間を確認する。

「あと3分で俺達の中学生生活も終わりだ」

「そつか……あと少しか……」

俺は何を言わず彼女に抱きつく。

季節は春、校庭の桜は少し咲いている。

身体に触れていく風。

心地よい。

心も、身体も温かい。

心の中で思う。

ああ、あと1分だ。

今までのことを思い出す。

笑ったこと、泣いたこと、怒ったこと……。

なんて楽しい日々だったのだろうか。

思い出すのは一瞬。

そして現実に戻される。

あと34秒。

あと33秒。

あと32秒。

「知ってるか」

「何??」

「春、それは終わりの季節である。夜、それは1日の終わりである」

「今の状況にぴったり」

「その通りだな」

「ずっと、ずっと、大好きだよ」

「俺もだ、いつまでも、大好きだ」

あと8秒。

「カウントダウン、してくれ」

「5

4

3

2

1

0

俺はゆつくりと彼女から離れる。

12時6秒。

12時7秒。

12時8秒。

そして、俺は言う。

彼女に、大きな声で。

「俺と、付き合ってください」

そして彼女は言う。

「もちろん、喜んで」

俺達は手をつないで、学校から離れていった。

「遠距離になるけど、本当によかったのか??」

「何度も言わせないの」

「んー、まあ、いつか」

「そうそう、好きであれば別にいいの」

「そうだな」

「ねえねえ、さっき、春と夜の話をしたじゃん」

「あーと、春、それは終わりの季節である。夜、それは1日の終わりである、だっけ??」

「それ、実は続きがあるのよねー」

「え、本当かよ」

「知りたい??」

「是非とも」

「春、それは始まりの季節である。夜、それは1日の始まりでもある。」

「対句かよ」

「そんな感じなんじゃないの??」

「でも、良い言葉だ」

「そうね」

「これからも、ずっと一緒に居れる」

「ずっとは無理かもね」

「……そんなこと言っなよ」

「もちろん嘘だけどね」

そんな話をしながら、俺達は帰っていった。

今日の日付は4月1日だ。

そして今の時刻は0時13分49秒。

俺は今、高校1年生。

そして、彼女居ます。

そうだ、忘れないでおう、この言葉を。

春、それは始まりの季節であり、終わりの季節でもある。

夜、それは1日の終わりであり、1日の始まりでもある。

終わりは、1つの始まり。

良い言葉だな。

（後書き）

昔書いた奴って、やっぱり今見返してみると怖い。かなり怖い。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7305/>

『春、夜』

2011年10月7日01時29分発行